

横須賀市の児童生徒の読書実態調査集計結果について

1. 調査の目的

平成29年度に策定した第3次横須賀市子ども読書活動推進計画の進捗状況を把握するため実態調査を実施しました。

2. 調査の概要

(1) 調査内容

平均読書冊数や読書についての意識、学校図書館利用の調査

小学生用調査票（別紙1）・中学生用調査票（別紙2）を各学校あて送付

(2) 調査対象

市立小学校の4・5・6年生の各学年の抽出1クラス

市立中学校の各学年の抽出1クラス

(3) 実施期間

令和3年12月1日～17日

(4) 調査基準

令和3年11月の1カ月間

3. 調査集計結果と今後の対応

(1カ月の読書冊数の全国との比較)

区 分		今回調査値（3年度）			前回調査値（2年度）			基準値（28年度）		
		本	雑誌	マンガ	本	雑誌	マンガ	本	雑誌	マンガ
小学生	横須賀	7.8冊	1.3冊	9.4冊	7.6冊	1.2冊	10.4冊	7.5冊	1.5冊	8.5冊
	全国	12.7冊	3.6冊					11.4冊	3.7冊	
中学生	横須賀	2.5冊	1.0冊	7.5冊	2.7冊	0.9冊	9.3冊	3.9冊	1.7冊	9.8冊
	全国	5.3冊	2.0冊					4.2冊	1.7冊	

※全国数値は、全国学校図書館協議会と毎日新聞社が合同で行っている令和3年6月調査の数値。

なお、前年度（2年度）は新型コロナウイルス感染症の影響により調査が未実施のため記載していない。

(1) 平均読書冊数を昨年度と比較すると、小学生は0.2冊増加し、中学生は0.2冊減少している。1か月間で一度も本を読まなかった児童生徒の割合（以下「不読率」という。）は、昨年度と比較すると、小学生は1.2%増加し、中学生も2.4%増加している。

小学生の平均読書冊数については改善傾向にあるが、中学生の平均読書冊数と小中学生の不読率については、今後も課題として取り組む必要がある。

さらに、小学生、中学生共に全国平均と比べて平均読書冊数が少なく、第3

次計画の目標値とも差があるため、第4次計画では、成果が出ている小学生に対する事業は継続し、中学生については、新しい事業に取り組むなど、実態を把握しながら計画を推進する必要がある。

- (2) 学校図書館の利用について、「よく利用する」、「ときどき利用する」の割合が、小学生は昨年度より3.2%減少し、中学生は0.1%増加した。

「あまり利用しない」、「利用したことがない」と回答した小学生、中学生の一番の理由は「行く時間がないから」を挙げており、小学生、中学生とも忙しさが伺える。

また、新型コロナウイルス感染症の影響による学校図書館の開館時間の制限も理由の一つと考えられる。

- (3) 電子図書については、小学生の約3割、中学生の約5割が「よく利用する」、「ときどき利用する」と回答している。

今後も電子図書の利用実績を検証し、不読率改善の手段として活用できるかを検討していく必要がある。

4. 結果の公表及び報告

- (1) 市ホームページ及び学校イントラネット上で公表します。
- (2) 調査実施学校に、当該学校分の集計結果を提供します。
- (3) 第3次横須賀市子ども読書活動推進計画の進捗管理を行う社会教育委員会議に、他の実施状況と併せて報告を行います。